

うた ひつじの詩だより

2008. 3. 1
毎月発行 No.84
この便りはご注文の品と
いっしょにお届けします

「三寒四温」はもともと中国の東北部で使われている言葉で、「いくら冬でも3日間寒かったら4日間くらいは暖かい日がある」という意味だそうです。それがちょうど日本の春先の、寒さと暖かさが交互に繰り返す時期にぴったり合ったため、日本では三寒四温を繰り返して春になってゆくという言い回しで使われるようになったとか。いくら気圧配置が冬型でも、日差しの明るさは紛うことなき春の訪れを告げています。ちょうど、ほら、あの感じ、ベスコフの「ウッレのスキーのたび」(フェリシモ刊)の冬王様が北極に引き上げて、雪どけばあさんがほうきでせっせと雪をはいてしまいます。そして、とうとうある晴れた日に、春の王女さまが白い蝶のひく車に乗ってやってくるのです!雪どけばあさんは、真新しいエプロンをかけて、満足そうにほほえんで、あせ道で王女さまにごあいさつするんですよ、ね!



「ウッレとスキーのたび」より

VADMALの手仕事

ヴァドマルは北欧の伝統的なウール地です。“この丈夫で暖かい布は、-30℃から+30℃という温度差に生きるスカンジナビアの人々が、動物の毛皮に代わるものとして生み出した羊毛製品の傑作です”と通信講座ペレの学校のテキストにあります。

厚手のウールを織り上げた後にしっかり縮絨してあるので、ほつれずにフェルトのように裁ちっぱなしで使うことができます。他の素材に押されて一時は廃れたものの、現代のデザイナーたちに手工芸の素材として見直され、生産が復活したのはうれしいことです。

ペレの学校では、每期ヴァドマルが教材に取り入れられています。厚手で丈夫でしっかりした布なのに、針通りがよく、手触りよく暖かく、手にする度に“上等”という言葉が浮かんできます。今期第4期は、なんと、豪華にもヴァドマルの箱庭作りです。

ヴァドマルには赤、青、黄、緑などがありますが、グレイがかった色味で、どれとどれを合わせても、しっくり合います。ほつれない性質を生かして、二枚重ねのモウのようにする使い方が、私はとても好きです。

スウェーデンひつじの詩舎では、“ヴァドマルの手仕事セット(3,800円)”を販売しています。ヴァドマルの布6色と、ボア、ステッチ用の毛糸がセットになった大変お得なキットです。「心を育む人形たち」に掲載されているブック型針刺しが2つ作れる材料が入っています。本のとおりでなく、生地をあれこれ組み合わせ、ご自分の用途にぴったりの道具入れを考えてみるのも楽しいと思います。また、“モーリンさんといっしょ”のキットの人形たちの服もヴァドマルでできています。モーリンさん1体(身長約20cm)と妹か弟のどちらか1体の材料で5,500円です。ヴァドマルの上質の縫い心地を、ぜひご堪能ください。

(写真:中央「ヴァドマルのブック型針刺し」、中央下「モーリンさんと妹たち」いずれも文化出版局「心を育む人形たち」より)



「心を育む人形たち」展のお知らせ

2月26日(火)~3月2日(日) ウーフ 香川県丸亀市土器町西 5-88

TEL0877-24-4667 担当:山地洋子

最終日の3月2日(日)には、佐々木奈々子のワークショップ「サーラちゃんを作しましょう」が行われます。

スウェーデンひつじの詩舎からのお知らせ

クリスマスおばさんのキットは、在庫がなくなり次第、販売終了になります。

子どもとお話

子どものためのワークショップ「ペレのこひつじ」では、わらべうたとお話、そして手仕事を楽しんでいますが、今回は、“子どもとお話”について、日頃感じていることをお話したいと思います。

「こひつじ」での語りの時間、聞き手の子どもたちは、お話の主人公に自分の心を重ね合わせて、お話の数だけ旅をし冒険を楽しんでいます。語り手の私は、子どもたちが体感したその気持ちや、彼らの心の中に栄養分として堆積していったらいいなあと思いながら話しています。

昨今の子どもたちは、頑張っているのに、更に「もっと早く」「もっと正確に」を求め続けられる場面が多いような気がします。そのような状況で、子どもの中に自己肯定感は育つでしょうか。昔話には、周りから「うすのろ」「ばかさま」と呼ばれていた主人公が、正直で優しい心持ちで生きて幸せをつかむ話がたくさんあります。困難な問題があっても知恵と勇気があれば乗り切れるし、援助者も必ずいてくれるのです。子どもは「このままの自分」で十分な存在、愛される存在であると思うことができれば、幸せな子ども時代を過ごすことができるでしょう。

豊かな土壌に育つ木は、太い幹を持ち、多少の風には折れない丈夫な木になるでしょう。しかし、やせた土地に育つ木は、細くてひよろひよろとして、少しの風にも折れてしまう木になるでしょう。自然の中では、その土地にどんな種が運ばれてくるかわかりませんが、どんな種が芽を出しても丈夫に育ち得る土壌をつくり耕しておいてやるのが、私たち大人の役目ではないでしょうか。子どもたちのやわらかな心を耕すお手伝いを「こひつじ」ができていたら、こんなに嬉しいことはありません。

ペレのこひつじ担当 安山良子(横浜市泉区在住)



3月のテーブル「ホレおばさん」

編集担当:佐藤治子

スウェーデンひつじの詩舎のホームページ

<http://www.s-hitsuji.co.jp/>



スウェーデンひつじの詩舎
スペース ペレのあたらしいふく
〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘 15-2
TEL.FAX 045-881-6900.6665
佐々木のアドリエ TEL.FAX 045-811-6708
相談窓口/火・金 担当:寺田裕子045-881-7035